

第8回 漢方生薬ソムリエ(初級)認定試験

試験問題

試験日：令和4年10月30日

注意事項の説明：12:45～13:00 (15分)

試験(筆記及び鑑定)：13:00～15:00 (120分)

退席可能時間：14:00～14:45

受験上の注意

1. 試験問題冊子は監督者の指示があるまで開かないでください。
2. 問題冊子、筆記試験解答用紙、鑑定試験解答用紙、各1部ずつ配布します。
3. 試験開始前に解答用紙に氏名を正しく記入してください。
4. 試験開始後、直ちに問題冊子に落丁がないか確認してください。表紙を含め全17ページです。
5. 筆記試験問題の出題数は全部で80問で、全て5択問題です。解答用紙に正解の番号を記してください。
6. 鑑定試験は1人10分です。指示に従って場所を移動して鑑定試験を受けて下さい。
7. 鑑定試験の生薬は20種類です。解答の記入は鑑定試験時間後、着席してからでも結構です。
8. 試験問題はお持ち帰りください。
9. 試験中は監督者の指示に従って下さい。

設問の注意

1. 設問の解答は、原則として第十八改正日本薬局方に収載されている範囲内とします。
2. 日本薬局方の条文では、生薬名はカタカナで表記されますが、設問では漢字表記もあります。但し、生薬名の英語又はラテン語表記の知識を問う問題はこの限りではありません。



日本漢方生薬ソムリエ協会

Japan Kampo Shoyaku Sommelier Association

問（１）次の生薬の中で、原植物が裸子植物であるのはどれか。

- ① 甘草
- ② 薏苡仁
- ③ 麻黄
- ④ 山茱萸
- ⑤ 龍眼肉

問（２）リンドウ科に属する植物に由来する生薬はどれか。

- ① アカメガシワ
- ② アロエ
- ③ ゲンノショウコ
- ④ ゲンチアナ
- ⑤ ジギタリス

問（３）次の生薬の中で、原植物の葉が単葉であるのはどれか。

- ① 甘草
- ② 桂皮
- ③ 威霊仙
- ④ 升麻
- ⑤ 龍眼肉

問（４）次の生薬の中で、検鏡で導管が認められるものはどれか。

- ① コンズランゴ
- ② 桂皮
- ③ 牡丹皮
- ④ 桑白皮
- ⑤ 半夏

問（５）組織中の粘液を染色することを目的に使用する試薬はどれか。

- ① フロログルシン
- ② スダンⅡ
- ③ スダンⅢ
- ④ メチレンブルー
- ⑤ 包水クロラール

問（６）次の薬用植物の中で、日本に自生するものはどれか。

- ① *Clematis chinensis* Osbeck
- ② *Gentiana manshurica* Kitagawa
- ③ *Astragalus mongholicus* Bunge
- ④ *Scutellaria baicalensis* Georgi
- ⑤ *Polygonatum sibiricum* Redoute

問（7）ウイキョウに関して正しい記載はどれか。

- ① 花は白い
- ② 果実には芳香があるが、葉にはない。
- ③ 日局ウイキョウの原植物はセリ科で2種ある。
- ④ 葉は糸状に分裂し対生する。
- ⑤ 原産地は地中海沿岸である。

問（8）原植物が食用のアスパラガスと同じ仲間の生薬はどれか

- ① バクモンドウ
- ② テンモンドウ
- ③ ゴシュユ
- ④ サンシュユ
- ⑤ サンショウ

問（9）ナンテン実は咳止めに利用される。赤南天よりも白南天が好まれる理由は何か。

- ① 果実が大きい。
- ② 果肉が厚い。
- ③ 「白は補い、赤は瀉す」の理論に基づく。
- ④ 味がまろやかで口にしやすい。
- ⑤ 味が渋く、薬効的に優れる。

問（10）原植物の花が淡紫色である生薬はどれか。

- ① シツリシ
- ② クコシ
- ③ ウコン
- ④ シコン
- ⑤ トコン

問（11）原産地がヒマラヤ山麓とされる薬用植物はどれか。

- ① *Glycyrrhiza uralensis*
- ② *Citrus aurantium* var. *daidai*
- ③ *Syzygium aromaticum*
- ④ *Jateorhiza columba*
- ⑤ *Rheum palmatum*

問（12）*Curcumae Rhizoma* の原植物は次のうちどれか。

- ① ショウガ
- ② リョウキョウ
- ③ ガジュツ
- ④ ハルウコン
- ⑤ ウコン

問 (13) 日本薬局方における「生薬総則」における記載内容の概要を記した。間違っているものはどれか。

- ① 生薬は、別に規定するもののほか、乾燥品を用いる。乾燥は、通例、60℃以下で行う。
- ② 生薬は、別に規定するもののほか、湿気及び虫害などを避けて保存する。虫害を防ぐため、適当な薫蒸剤を加えて保存することができる。
- ③ 生薬に用いる容器は、別に規定するもののほか、密閉容器とする。
- ④ 生薬の基原は適否の判定基準とする。生薬の基原として、「その他同属植物」、「その他近縁植物」などと記載するものは、通例、同様の成分、薬効を有する生薬として用いられる原植物をいう。
- ⑤ 生薬の性状において、色、におい及び味は適否の判定基準としない。

問 (14) 生薬のケイヒとニッケイについて、正しい記載はどれか。

- ① 日局では薬効成分の cinnamaldehyde の含有率の下限値を規定している。
- ② 桂枝湯には *Cinnamomum cassia* の枝を配合する。
- ③ 中国の生薬市場で肉桂を購入した。桂皮とは異なるので、使うべきではない。
- ④ 日本のニッケイは *Cinnamomum sieboldii* である。
- ⑤ 桂皮のことをシナモンと称しても問題ない。

問 (15) 医薬品の芍薬について説明した以下の文章で正しいものはどれか。

- ① *Paeonia lactiflora* の根に由来し、局方試験に合格したものであれば、園芸用シャクヤクであっても日局シャクヤクとして使用して問題ない。
- ② 日本では古来、皮を去り、湯通しした真芍が用いられてきた。したがって、皮付きの生干芍薬は日局シャクヤクとして使用できない。
- ③ 中国の生薬市場には白芍と赤芍がある。中国で購入した白芍はそのまま日局シャクヤクとして使用できるが、赤芍は使用できない。
- ④ 日本の真芍と中国の白芍は同じ生薬と考えてよい。
- ⑤ *Paeonia lactiflora* は日本にも寒冷地に野生する。

問 (16) 次の漢方処方でうるち米が配合されるものはどれか

- ① 麦門冬湯
- ② 葛根湯
- ③ 小柴胡湯
- ④ 甘麦大棗湯
- ⑤ 薏苡仁湯

問 (17) 次の漢方処方の中で、サイコが配合されているものはどれか。

- ① 当帰芍薬散
- ② 補中益気湯
- ③ 十全大補湯
- ④ 桂枝湯
- ⑤ 半夏厚朴湯

問 (18) ショウキョウとカンキョウについて述べた文章で間違いがあるのはどれか

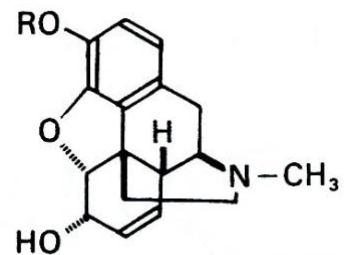
- ① ショウキョウとカンキョウはともにショウガの根茎に由来するが、新陳代謝機能を賦活して体を温める作用があるものはカンキョウである。
- ② 乾燥品にショウキョウと記載すれば医薬品、ショウガと記載すれば食品である。
- ③ ショウキョウは[6]-shogaol の含量がカンキョウより多い。
- ④ 人参湯に配合される生薬はカンキョウである。
- ⑤ カンキョウはショウガの根茎を湯通し又は蒸してから乾燥したものである。

問 (19) 乾地黄と熟地黄について記載した文章で正しいものはどれか。

- ① 熟地黄はイリドイド成分が多いため、滋養強壯作用が強い。
- ② 日本薬局方では糖の種類を確認することにより、乾地黄と熟地黄を分けている。
- ③ 乾地黄と熟地黄は元来、原植物が異なっていた。
- ④ 熟地黄はカイケイジオウの新鮮な根を湯通しして乾燥したものである。
- ⑤ 胃内停水のある人には乾地黄より熟地黄を用いた方が良い。

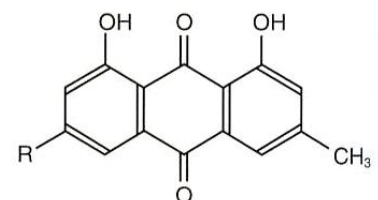
問 (20) 図に示すような化合物に類する成分を含有する生薬はどれか。

- ① BENZOINUM
- ② TRAGACANTHA
- ③ POLYPORUS
- ④ OPIUM
- ⑤ AGAR



問 (21) 図に示すような化合物に類する成分を含有しない生薬はどれか。

- ① アロエ
- ② ケツメイシ
- ③ ダイオウ
- ④ ケンゴシ
- ⑤ センナ



問 (22) 写真に示す植物に由来する生薬の説明として正しいものはどれか。

- ① 本品は板状又は半管状の皮片で、外面は帯緑灰色～帯褐灰色で、灰白色～褐色の皮目が群をなし、縦しま状の模様として認められる。折りやすく、折面はやや繊維性である。

- ② 本品は細長い棒状を呈し、長さ 30~40 cm、径約 0.5 cm である。外面は暗褐色で、内部には多数の種子がある。果皮は薄く、折れやすい。
- ③ 本品は双懸果で長円柱形を呈し、長さ 3.5~8mm、幅 1~2.5 mm である。外面は灰黄緑色~灰黄色で、互いに密接する 2 個の分果の各々には 5 本の隆起線がある。
- ④ 本品は縮んだ葉及びその破片からなり、しばしば細い茎を含む。葉の上面は暗緑色を呈し、下面は灰白色の綿毛を密生する。



- ⑤ 本品はかぎ状のとげ又はとげが対生若しくは単生する短い茎からなる。とげは長さ 1~4 cm で、湾曲して先端はとがり、外面は赤褐色~暗褐色、又は灰褐色を呈し、毛を付けるものもある。

問 (23) 日本薬局方ではオウレンを「本品はオウレン *Coptis japonica* Makino、*Coptis chinensis* Franchet、*Coptis deltoidea* C.Y. Cheng et Hsiao 又は *Coptis teeta* Wallich (Ranunculaceae) の根をほとんど除いた根茎である。」と規定しているが、この解釈として間違っただけのものか。

- ① 日本薬局方の学名表記とは異なるが分類学的に同一あるいは同一とみなされることがあり、キクバオウレン *Coptis japonica* Makino var. *anemonifolia* H. Ohba はこれに該当する。
- ② 日局オウレンの原植物は複数種あり *Coptis deltoidea* C.Y. Cheng et Hsiao もその一種である。
- ③ 日本薬局方の学名表記は分類学的に用いられている学名表記と異なる場合があり、*Coptis chinensis* Franchet は *Coptis chinensis* Fr. と同じ種を指している。
- ④ セリバオウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *dissecta* (Yatabe) Nakai は、原植物として規定されていないので日局品として扱われない植物種である。
- ⑤ *Coptis teeta* Wallich は東ヒマラヤに産し、雲南黄連の原植物である。

問 (24) トウキの説明として正しい記載はどれか。

- ① 日本では 17 世紀中頃から栽培化され始め、日本各地でその土地の野生種が採集また栽培されたため少しずつ品質が異なっていたようで、産地により、常陸当帰、仙台当帰、越後当帰、伊吹当帰などと呼ばれていた。
- ② 大和当帰はブランド化され、許可なく家庭で栽培することは禁じられている。
- ③ 中国のトウキの原植物はカラトウキ *Angelica sinensis* (Oliv.) Diels とされるが、日本のトウキ *Angelica actiloba* Kitagawa と非常に似ているので同一種とみなされている。
- ④ 古来良質品と云われてきた「馬尾当帰」の形状に近いものとして北海当帰が知られている。
- ⑤ 生薬としての大和当帰は奈良県庁がブランド化したものである。

問 (25) ブシの説明として正しいものはどれか。

- ① ブシはアコニチンに代表される有毒アルカロイドを含有しているが、一般の薬剤と同様に特に使用に注意が必要というわけではない。
- ② 日本薬局方ではハナトリカブト *Aconitum carmichaeli* Debeaux のみを原植物としている
- ③ ブシは減毒を目的に修治（加工調製）されたものがあり、日本薬局方では高熱蒸気処理で加工調製したもののみが定められている。
- ④ 日本薬局方では「ブシ 1」、「ブシ 2」、「ブシ 3」と区別しているが、これは使用する処方中への配合量により区別されたものである。
- ⑤ ブシは鎮痛、新陳代謝賦活、利尿、強心などを目的に、八味地黄丸を始め牛車腎気丸、真武湯、大防風湯などの処方にも配合される。

問 (26) 下の【 】内は葛根湯の構成生薬を英名で表したものであるが、不足している生薬が1種ある。不足している生薬はどれか。

【Pueraria Root、Ephedra Herb、Cinnamon Bark、Jujube、Glycyrrhiza、Ginger】

- ① Bupleurum Root
- ② Processed Ginger
- ③ Peony Root
- ④ Rhubarb
- ⑤ Pinellia Tuber

問 (27) 生薬ニンジンの説明として正しいものはどれか。

- ① 『神農本草経』の上品に収載され、古来補薬として珍重されおり、陶弘景は高麗のものが最も品質が良いとしている。
- ② 人参は日本では有名で高価な生薬で、江戸時代には病身の親のために身売りしてまで入手したという話があるが、中国ではそれほど高い評価を受けていない。
- ③ チクセツニンジンの中にはしばしば直根人参が生じ、このものは日局「人参」として流通することがある。
- ④ ニンジンの名称に朝鮮人参、白参、雲州人参、西洋人参、生干人参、御種人参、田七人参などがあるが、これらはすべて *Panax ginseng* C. A. Meyer に由来するものである。
- ⑤ ニンジン蒸したものにコウジンがあるが、日本薬局方ではニンジンとして同一品目の中で取り扱われている。

問 (28) カンゾウの説明として誤った記載はどれか

- ① カンゾウが引き起こす副作用の1つに「偽アルドステロン症」が知られており、服用者の感受性や服用量には注意を払う必要がある。
- ② 『神農本草経』の上品に収載され、解毒や諸薬の調和など多数の効を有し、「国老（皇帝の師の意味）」とも称される重要な生薬である。
- ③ カンゾウの原植物である *Glycyrrhiza* 属植物は日本に自生せず、国内の需要は、これまで輸入に頼ってきたが、江戸時代には、甲州上於曾村（現在の山梨県塩山市）でカンゾウが栽培されており、幕府は国産品生薬の奨励もあり保護、栽培の拡大を行った。
- ④ カンゾウの主産国は中国で、環境保護、資源保護の観点から野生品の採取は制限され、輸出は前もって中国企業に輸出数量が割り当てる許認可制をとって管理を行っている。
- ⑤ 日本薬局方ではカンゾウを *Glycyrrhiza uralensis* Fischer、*Glycyrrhiza glabra* Linné 又は *Glycyrrhiza inflata* Batalin (*Leguminosae*)の根及びストロンで、ときには周皮を除いたもの（皮取りカンゾウ）と規定している。

問 (29) 次に示す生薬と薬用部位のうち、正しい組み合わせはどれか。

- ① 黄連／根
- ② 知母／鱗茎
- ③ 貝母／鱗茎
- ④ 半夏／根茎
- ⑤ 黄精／鱗茎

問 (30) 次の生薬のうち、バラ科植物由来の生薬はどれか。

- ① マシニン
- ② トウニン
- ③ サンソウニン
- ④ ヨクイニン
- ⑤ ケツメイシ

問 (31) マオウの説明として誤った内容はどれか。

- ① マオウは六陳（古いものが良質品とされる）生薬の一つに数えられ、味の渋いものが良品質とされている。
- ② 実際に流通しているマオウは主に *E. sinica*、一部 *E. intermedia* に由来するもので、これらはアジアに広く分布する雌雄異株の小低木である。
- ③ マオウは葛根湯、小青竜湯、麻黄湯、防風通聖散、麻杏甘石湯などの多くの漢方処方に配合され『傷寒論』（古代中国の後漢末から三国時代）の時代から利用されてきた。
- ④ 日本薬局方ではマオウ EPHEDRAE HERBA を *Ephedra sinica* Stapf、*E. intermedia* Schrenk et C. A. Meyer 又は *E. equisetina* Bunge (*Ephedraceae*) の全草であると規定している。
- ⑤ マオウは主として中国からの輸入品に 100%依存しているが、最近では国内自給生産に向けた研究が行われている。

問 (32) 日本薬局方では生薬の適否の判定基準と判断基準について規定しているが、下表でそれぞれの項目が正しい組み合わせの番号はどれか

	基原	色	におい	味	大きさ	鏡検時の数値
①	判定基準	判定基準	判定基準	判定基準	判定基準	判定基準
②	判定基準	判定基準	判定基準	判断基準	判断基準	判断基準
③	判定基準	判断基準	判定基準	判定基準	判断基準	判断基準
④	判断基準	判断基準	判定基準	判定基準	判断基準	判断基準
⑤	判断基準	判断基準	判断基準	判断基準	判断基準	判断基準

問 (33) 生薬の味とラテン名の一組で間違った組み合わせのものはどれか次の中から選べ。

- ① 苦い : COPTIDIS RHIZOMA, SOPHORAE RADIX
- ② 甘い : HYDRANGEAE DULCIS FOLIUM, GLYCYRRHIZAE RADIX
- ③ 辛い : ZINGIBERIS RHIZOMA, CAPSICI FRUCTUS
- ④ 酸味 : SCHISANDRAE FRUCTUS, SWERTIAE HERBA
- ⑤ しびれ (麻痺) : ASIASARI RADIX, EPHEDRAE HERBA

問 (34) 次の生薬のうち、下剤として用いられるのはどれか。

- ① 五味子
- ② 枸杞子

- ③ 牽牛子
- ④ 山査子
- ⑤ 山梔子

問 (35) 次の生薬のうち、ユリ科植物に由来しないものはどれか。

- ① チモ
- ② バクモンドウ
- ③ テンモンドウ
- ④ ハンゲ
- ⑤ ビャクゴウ

問 (36) 次のうち、通例、湯通しするものはどれか

- ① *Coptis Rhizome*
- ② *Corydalis Tuber*
- ③ *Astragalus Root*
- ④ *Pueraria Root*
- ⑤ *Bupleurum Root*

問 (37) 日本薬局方の基原に「種間雑種」の記載があるものはどれか。

- ① センコツ
- ② チョウトウコウ
- ③ オウバク
- ④ インヨウカク
- ⑤ サイシン

問 (38) 次の生薬の中で、原植物がシソ科ではないものはどれか。

- ① PRUNELLAE SPICA
- ② POLYGALAE RADIX
- ③ SCHIZONEPETAE SPICA
- ④ PERILLAE HERBA
- ⑤ SCUTELLARIAE RADIX

問 (39) 次の薬用植物の中で、他の4種と花の色が異なるものはどれか。

- ① *Foeniculum vulgare* Miller
- ② *Lithospermum erythrorhizon* Siebold et Zuccarini
- ③ *Magnolia heptapeta* Dandy

- ④ *Schisandra chinensis* Baillon
- ⑤ *Trichosanthes kirilowii* Maximowicz var. *japonica* Kitamura

問 (40) 次の生薬の中で、他の4種と薬用部位が異なるものはどれか。

- ① TRIBULI FRUCTUS
- ② ARCTII FRUCTUS
- ③ ALPINIAE FRUCTUS
- ④ FOENICULI FRUCTUS
- ⑤ CORNI FRUCTUS

問 (41) 次のうち、動物性の生薬はどれか

- ① MEL
- ② SAL MIRABILIS
- ③ OLEUM SESAMI
- ④ PORIA
- ⑤ AMYLUM ORYZAE

問 (42) 次の生薬の中で、原植物が他の4者と科が異なるものはどれか。

- ① GUMMI ARABICUM
- ② SOPHORAE RADIX
- ③ CATALPAE FRUCTUS
- ④ SAPPAN LIGNUM
- ⑤ TRAGACANTHA

問 (43) 生薬・薬用植物に関する逸話で、誤っているものはどれか。

- ① 一説では、淫羊藿の語源は食した羊の精力が増したことよるといわれている。
- ② 烏薬には秦の徐福にまつわる伝説がある
- ③ ベラドンナには瞳孔を開くアトロピンが含まれ、クレオパトラはそのエキスを点眼したといわれている。
- ④ 徳川家の家紋として知られるフタバアオイはアオイ科ではなくウスバサイシンと同じウマノスズクサ科である。
- ⑤ スイレンは食用・薬用に留まらず、文化ともつながりが強く仏が座る蓮華座はその花を模したものである。

問 (44) 写真に示す植物の説明文として誤っているものはどれか。

- ① 薬用部位はとげである。
- ② 撮影時期は6月である。
- ③ 有効成分は熱に弱い。
- ④ アカネ科の植物である。
- ⑤ とげの数が節に1つか2つ(1対)かは個体によって異なる。



問 (45) 写真に示す植物の説明文で正しいものはどれか。

- ① 紫ウコンや夏ウコンとも呼ばれる。
- ② 赤ウコンや秋ウコンとも呼ばれる。
- ③ 白ウコンや春ウコンとも呼ばれる。
- ④ 黒ウコンや秋ウコンとも呼ばれる。
- ⑤ 緑ウコンや夏ウコンとも呼ばれる。



問 (46) 写真はクチナシの栽培品種であるが、山梔子としては利用されない。理由として正しい記載はどれか。

- ① ゲニポシド含量が日局規格を満たさない。
- ② *Gardenia* 属植物ではない。
- ③ 有毒である。
- ④ 中国にはない植物(品種)である。
- ⑤ 結実しない。



問 (47) 古典で「薯蕷」と書かれた生薬は何か。

- ① DIOSCOREAE RHIZOMA
- ② ARISMATIS RHIZOMA
- ③ PAEONIAE RADIX
- ④ PINELLIAE TUBER
- ⑤ CORYDALIS TUBER

問 (48) 畑の雑草として嫌われている薬用植物はどれか。

- ① *Cyperus rotundus*
- ② *Paeonia lactiflora*
- ③ *Bupleurum falcatum*
- ④ *Carthamus tinctorius*
- ⑤ *Corydalis turtschaninovii*

問 (49) 通称「ワシントン条約」にて規制を受ける生薬はどれか。

- ① 甘草
- ② 知母

- ③ 肉蓯蓉
- ④ 麻黄
- ⑤ 木香

問 (50) 桔梗根の主な薬効はどれか。

- ① 消炎、鎮吐
- ② 鎮痙、鎮痛
- ③ 健胃、殺虫
- ④ 止血、抗菌
- ⑤ 鎮咳、去痰

問 (51) 附子は減毒のために高圧蒸気処理による修治が行われる。この修治で引き起こされる主な化学反応はどれか。

- ① アルキル化反応
- ② 酸化反応
- ③ 還元反応
- ④ 加水分解反応
- ⑤ 脱水反応

問 (52) 葛根 (PUERARIAE RADIX) に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 日本薬局方でプエラリンの含有量が規定されている。
- ② 原植物はマメ科に属する多年草である。
- ③ 日本薬局方には初版から「葛根」として収載されている。
- ④ 原植物は日本に野生しているが、国内自給率は低い。
- ⑤ 葛根湯の君薬で、鎮痙、発汗、解熱の効能がある。

問 (53) アリストロキア酸に関する次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① アリストロキア酸を含む植物の代表的な科はウマノスズクサ科である。
- ② アリストロキア酸は肝障害を起こすことが知られている。
- ③ 日本薬局方モクツウ (木通) はアリストロキア酸を含まないが、中国の関木通はアリストロキア酸を含む。
- ④ 日本薬局方ボウイ (防已) はアリストロキア酸を含まないが、中国の広防已はアリストロキア酸を含む。
- ⑤ 日本薬局方サイシン (細辛) の地下部はアリストロキア酸を含まないが、地上部はアリストロキア酸を含む。

問 (54) 生薬の原植物に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- ① オウレンとオウバクスの原植物は共にミカン科に属し、主成分として苦味強いインドールアルカロイドを含む。
- ② トウキとセンキュウの原植物は共にセリ科に属し、主成分としてリグナン類を含む。
- ③ ダイオウとセンナの原植物は共にマメ科に属し、主成分としてビアントロン類を含む。
- ④ ゲンチアナとリュウタンの原植物は共にリンドウ科に属し、主成分としてセコイリドイド配糖

体を含む。

- ⑤ オンジとセネガの原植物は共にユリ科に属し、主成分としてステロイドサポニンを含む。

問 (55) 日局に「本品は通例、切断したもので、外面は暗褐色～暗赤褐色で縦じわがあり、切面は褐色～淡黄褐色である。周皮が脱落したものは外面が褐色～淡黄褐色で繊維性である。横切面は、皮部と木部の境界がほぼ明らかで、放射状の構造を呈し、しばしば放射状に裂け目がある。本品は香ばしいにおいがあり、味は甘く、後にやや苦い。」と性状記載された生薬は何か。

- ① GLYCYRRHIZAE RADEX PRAEPARATA
- ② GLYCYRRHIZAE RADIX PULVERATA
- ③ PAEONIAE RADIX
- ④ PAEONIAE RADIX PULVERATA
- ⑤ ATRACTYLODIS RHIZOMA PULVERATUM

問 (56) 日局に「本品はやや扁圧された球形～不整形を呈し、径 0.7～2.5cm、高さ 0.7～1.5cm である。外面は白色～灰白黄色で、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。質は充実する。切面は白色、粉性である。本品はほとんどにおいがなく、味は初めなく、やや粘液性で、後に強いえぐ味を残す。」と性状記載された生薬は何か。

- ① 沢瀉
- ② 半夏
- ③ 附子
- ④ 延胡索
- ⑤ 貝母

問 (57) 写真に示す根茎の原植物は何か。

- ① ショウガ
- ② ハナスゲ
- ③ ハナトリカブト
- ④ ハシリドコロ
- ⑤ クサスギカズラ



問 (58) 写真に示す薬用植物の収穫時期はいつか。

- ① 春
- ② 土用の頃
- ③ 夏
- ④ 秋
- ⑤ 冬



問 (59) 写真に示す薬用植物はどの生薬の原植物か。

- ① 鬱金
- ② 附子
- ③ 益智
- ④ 小豆蔻
- ⑤ 乾姜



問 (60) 写真に示す薬用植物はどの生薬の原植物か。

- ① SAUSSUREAE RADIX
- ② STRYCHNI SEMEN
- ③ ACONITI TUBER
- ④ ALPINIAE OFFICINARI RHIZOMA
- ⑤ SCOPOLIAE RHIZOMA



問 (61) 写真に示す薬用植物は何か。

- ① *Dolichos lablab* L.
- ② *Polygonum multiflorum* Thunb.
- ③ *Polygala tenuifolia* Wild.
- ④ *Trichosanthes kirilowii* Maxim.
- ⑤ *Clematis chinensis* Osbeck



問 (62) 確認試験にドラーゲンドルフ試薬を利用する生薬は何れか。

- ① ショウキョウ
- ② サイシン
- ③ ゴボウシ
- ④ シャクヤク
- ⑤ コウボク

問 (63) 次の生薬と日局確認指標成分の組み合わせで、間違っているものはどれか。

- ① 厚朴／マグノロール
- ② 芍薬／ペオニフロリン
- ③ 葛根／プエラリン
- ④ 黄耆／アストラガロシドIV
- ⑤ 桃仁／アミグダリン

問 (64) 日局「キクカ」の1原植物であるシマカンギクに関する記載のうち、正しいものはどれか。

- ① 5～7月の花の満開期に採集して乾燥する。
- ② 6～8月の開花期の香りの強い時期に採集して乾燥する。
- ③ 8～10月の開花期に全草を採集して乾燥する。
- ④ 10月頃の花の満開期に中国の栽培地で採集して乾燥する。
- ⑤ 10月頃の花の満開期に野生品を採集して乾燥する。

問 (65) 次の薬用植物で、日本でも薬用に栽培されているものはどれか。

- ④ リンコフィリン+ヒルスチン 釣藤散
- ⑤ アコニチン類 八味地黄丸

問 (69) 煎じる際に後下が推奨される生薬はどれか。

- ① コウベイ
- ② コウブシ
- ③ セッコウ
- ④ リュウコツ
- ⑤ チョウトウコウ

問 (70) 次の生薬のうち、六陳に含まれるものはどれか。

- ① 茯苓
- ② 麻黄
- ③ 附子
- ④ 大棗
- ⑤ 地黄

問 (71) 次の生薬の中で、日本産の流通がないものはどれか。

- ① 紅花
- ② 川芎
- ③ 蘇葉
- ④ 厚朴
- ⑤ 山椒

問 (72) 長期投与により腸間膜静脈硬化症を引き起こすとされる生薬はどれか。

- ① Rhubarb
- ② Scutellaria Root
- ③ Pinellia Tuber
- ④ Gardenia Fruit
- ⑤ Ephedra Herb

問 (73) 次の漢方処方の中で、ハッカが配合される処方はどれか。

- ① 黄連解毒湯
- ② 加味逍遥散
- ③ 桂枝茯苓丸

- ④ 桃核承気湯
- ⑤ 当帰芍薬散

問（74）次の漢方処方の中で、カンゾウが配合されない処方はどれか。

- ① 四逆散
- ② 小柴胡湯
- ③ 大柴胡湯
- ④ 柴胡桂枝湯
- ⑤ 柴胡桂枝乾姜湯

問（75）次のうち、八味地黄丸に配合されない生薬はどれか。

- ① GLYCYRRHIZAE RADIX
- ② MOUTAN CORTEX
- ③ CORNI FRUCTUS
- ④ ALISMATIS TUBER
- ⑤ PORIA PULVERATUM

問（76）八味地黄丸エキス顆粒の使用法及び使用上の注意に関する記述のうち、間違いはどれか。

- ① 本剤には附子が含まれているので、小児等には慎重に使用する。
- ② 高血圧の患者に使用してはならない。
- ③ 身体を温める作用があるので、冷えのある患者に使用する。
- ④ 流早産の危険性があるので、妊婦には使用しないことが望ましい。
- ⑤ 主な副作用は、胃部不快感、食欲不振、腹痛などの消化器症状である。

問（77）次の漢方処方のうち、傷寒論に記載がない処方はどれか。

- ① 小柴胡湯
- ② 芍薬甘草湯
- ③ 補中益気湯
- ④ 半夏瀉心湯
- ⑤ 葛根湯

問（78）次の古典籍のうち、陰陽五行説に則って記載されているものはどれか。

- ① 神農本草経
- ② 傷寒雑病論
- ③ 薬徴
- ④ 黄帝内経
- ⑤ 本草綱目

問（79）伝統医薬学書に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 日本独自の漢方医学としては後世派や古方派などが知られている。
- ② 『傷寒論』は今から約1800年前に成立した中国の医書である。
- ③ 『神農本草経』では毒性が強く、病を治すのに優れた生薬を上薬（上品）に分類している。

- ④ エジプトでつくられた『エーベルスパピルス』には、アヘン、ケイヒなど多くの生薬が記載されている。
- ⑤ 『マテリアメディカ』はローマ時代にディオスコリデス (Dioscorides) により著され、今日、『ギリシャ本草』と称されている。

問 (80) 『政和本草』のコピーを示した。正しい解説はどれか。

- ① 陶弘景は『図經本草』を引用して意見を述べている。
- ② 茜根が生薬として初収載されたのは『傷寒論』である。
- ③ 茜根が生薬として初収載されたのは唐の時代である。
- ④ 茜根が生薬として初収載されたのは宋の時代である。
- ⑤ 付図は『図經本草』からの引用である。

茜根

茜根 味甘 無毒 主寒濕風痺黃疸補中 止血內崩下
 血膀胱不足 踈跌蠱毒 久服益精氣 輕身 可以染絳
 名地血一名茹蔥一名茅蒐一名積生喬山川谷三月三月
 採根暴乾而少不如西多今俗道經方不甚服用此當以其為勝
少而豐感故也詩云茹蔥在坂者是 自高錫等藥譜云國經云漆絳
 草葉似秦華頭失下關華葉俱滋四五葉對生節間蔓近草木上根紫
 赤色今所在有八月採根爾雅云茹蔥茅蒐疏引陸機云一名地血
 齊人謂之茜徐州人謂之牛蒡藥譜云茜根味甘主治六極傷心
 肺吐血瀉血用之藥譜云茜根主蠱毒汁服之今之漆絳者字亦
 作清原禮庶氏掌除蠱毒以嘉草吹之嘉草葉荷與茜主蠱為最也
 臘治瘡癩泄精尿血撲損瘀血酒煎服殺蠱毒入藥劉妙用
 圖經曰茜根一作積生喬山川谷今近處皆有之漆絳草也詩國
節間其苗蔓延草木上根紫色陸機草木疏云茹蔥茅蒐積草也詩國
人謂之茜徐州人謂之生蔓二月三月採根暴乾今圃人或作哇種
特故貨殖傳云危茜千石亦比千乘之家言地利之厚也醫家用治
蠱毒尤勝周禮庶氏掌除蠱毒以嘉草攻之于竇以嘉草為藥前陳

